

特集 2

助産師の新たなアプローチ

子どもを持つ 女子受刑者の 出所後も含めた 支援とケア

現在、日本には11の女子収容施設があり、年間約4000～5000名の受刑者が服役しています。その中には、受刑中に妊娠・出産を経験する女性や、子どものいる母親も多く、近年、彼女たちを支援するための「女子施設地域連携事業」が進められています。

女子受刑者の中には、被虐待経験のある人や、薬物などの依存症・メンタルヘルスの問題を抱える人たちがいますが、いずれ地域で子どもと暮らし、社会生活を送ることを考えると、支援の手は欠かせません。妊婦健診から社会復帰の教育、地域での生活まで、助産師が母子の支援活動にどのように貢献し、どのような役割を担えるのか、本特集を通して考え、また女子受刑者の支援の輪を広げていきたいと思います。